

英語によるポスター発表の報告

7月16日(火)、本校第1講義室でポスター発表が行われました。これは、海外サイエンスツアー、英語による科学の講義などとともに、グローバルな会話能力・国際性の育成を目指した英語での発表でした。参加者は、3年生の課題研究生18名、大阪大学の留学生2名、本校教諭8名です。

3年生の課題研究生が、2年生までに実施した課題研究の内容を1枚のポスターに英語でまとめ、英語で発表をし、英語で質疑応答を行ったあと、大阪大学の留学生2名が英語で講評を行いました。発表は以下の通りです。

Chairmanship : Tatsuro Yamawaki (Teacher)

- 1) diagram
Yukino Numata
- 2) Research on seasonal form of Cabbage white
Atsushi Koiso / Takeshi Jinno / Shinya Michibata
- 3) Guppy' s heredity
Tomomi Kakutani / Ai Yamamoto
- 4) Water quality survey of the moa of Emperor Nintoku tumulus
Atsuyuki Okada / Shohei Kusumoto
- 5) The Structure and the Effects that make the Bicycle Stable
Takumi Kawabata / Shohei Yamagaya / Sayaka Miyazaki
- 6) Study of Rubber
Keisuke Yasuda
- 7) The Research of Planarian' s Unusual Eyes
Takuma Taniura / Miki Arikata
- 8) The Change in Color of cobalt ion solution
Kunihiro Oshima / Riku Tanino / Akira Hoshino / Yuki Maekawa

事後のアンケートでは、英語によるポスター発表により英作文・スピーキング・リスニングの能力が向上したと思うと答えた生徒が半数以上に上りました。以下は、参加生徒、教員の感想の一部抜粋です。

(生徒)

- ・英語の発表はとても難しかった。しかし、集中すれば何とか聞きとれたし、伝えようと思えば身振りも加えて何とか伝えることができたと思う。伝えようとする姿勢が大事だとわかった。後輩はそこを磨いてほしい。
- ・留学生の方に説明が伝わって納得してもらえた瞬間がとてうれしかった。質問の英語も聞きとれて自信がついた。もっと英語で発表することが「あたりまえ」に感じるようにならないといけないと思った。

(教員)

- ・思ったよりも英語を使って堂々とプレゼンテーションができていた。研究内容については、時間をかけて取り組んだだけあって、英語を使いながらも質問にきちんと答えられていて感心した。
- ・留学生の二人が熱心に発表に耳を傾け、質問をたっぷりしてくださり、中身の濃いプログラムになった。三国丘高校のSSHにとって、大きな前にむかっての一步となったのではないかな。

